



高崎山通信

2025. 冬号



冬を迎えた高崎山のサルたち



「サル団子」の様子

高崎山のサルたちにとって、厳しい冬がやってきました。

木の実や葉っぱがなくなった今、サルたちは木の枝や木の皮を食べて空腹をしのいでいます。

気温が低く風が強い日は、お互いに身を寄せて体を温めます。これを「サル団子」と呼んでいます。体温が概ね38度あるサルたちは、団子のように集まることで寒さをしのぎ、厳しい冬を乗り越えています。

子ザルたちは、冷たい地面にできるだけ触れないように、後ろ足だけで歩くことができます。腕を胸の前で組み、後ろ足だけでヨチヨチ歩く姿から「ヒヨコ歩き」と呼んでいます。

時には、園内に設置されたヒーターの前で体を温めるサルたちもいます。背筋を伸ばして両腕を上げ、お腹を温めながらも、顔が熱くならないように、横を向いて温度調整をしている様子は人間のようでとてもかわいいです。

冬にしか見られないサルたちの様子を見に、ぜひご来園ください。



★おさるの団暖ヒーターは
2月28日(金)まで設置しています



子ザルの「ヒヨコ歩き」



B群「オオムギ」と「ヤケイ」の恋愛事情



今年もサルたちの恋の季節(11月から3月頃)が、はじまりました。

発情期を迎え、顔とお尻を真っ赤にしてパートナーを探しているサルたちの恋愛事情を紹介します。

注目は、現在B群第1位オオムギ(23才・人間の年齢でおよそ70才)と、元B群第1位ヤケイ(12才・人間の年齢でおよそ30代半ば)です。

オオムギは、体格が良くケンカが強そうに見えますが、温厚で優しい性格です。一方ヤケイは、自ら狩りに行く「肉食系女子」に例えられるほど、好きになったオスザルに対して積極的にアプローチを行います。

まさに対照的な2頭ですが、実は、オオムギはヤケイに好意を抱いています。

通常、オスザルはメスザルを追いかけて背後から咬みついて求愛をするのですが、オオムギは、持ち味の優しさを全面的にアピールするかのよう、ヤケイに対しては丁寧に毛づくろいをしてあげます。



ヤケイに毛づくろいをするオオムギ



奥・オオムギ、手前・ヤケイ

11月中旬、オオムギはヤケイに近づき、気を引こうとするのですが相手にしてもらえません。しばらくして、「毛づくろいしてよ!」と言わんばかりに一声うなって横になったヤケイに、丁寧な毛づくろいをしてあげていましたが、その後の餌付けをきっかけにヤケイはオオムギから離れてしまいました。

11月下旬になると、オオムギはヤケイだけではなく、他のメスザルにも求愛をしていました。

手あたり次第、求愛を行うようになったオオムギですが、ヤケイとの関係は、今後進展があるのでしょうか?

個体数調査結果

年に1度、高崎山のサルの個体数調査を行っています。

調査は、サルが山からサル寄せ場に往復するルート上に、調査員を一行に配置し、その間を通過したサルをカウントする方法(行列カウント法)で行いました。

今年は、B群584頭、C群301頭、総数885頭でした。

5月から8月の出産期の出産頭数はB群83頭、C群64頭でした。

◆ デコピンの母「アキラ」の恋愛 ◆

令和6年の第一号赤ちゃんザル「デコピン」を出産したことで話題となったB群所属のアキラですが、今年も恋愛シーズンではモテモテです。アキラは、顔の赤みもあまりなく、発情をしているようには見えませんが、なぜか、オスザル達から注目を浴びています。

12月に入ってから、B群第1位のオオムギも、熱心にアキラに毛づくろいをしたり優しく背中をタッチしたり、気を引こうと必死です。

なぜ、これほどオスザルがアキラに関心を持っているのか気になっていたのですが、その理由がわかりました。アキラは、オオムギから離れている時に、自主的に第2位クリスに接近し、毛づくろいをしてあげていました。そうなのです！この時期、モテない傾向にある上位のオスザルたちに、気のある素振りをアキラがみせていたのです。上位のオスザルの気を引くことで、アキラ自身群れの中で優位に振舞うことが出来るからなのです。

その一方で、12月のある日、第1位のオオムギに近づいたアキラは、オオムギをB群とC群の2つの群れの境界へ誘導し、C群に対しても自らの地位を見せつけるかのように、威嚇を始めたのです。このままでは、オオムギはアキラの肩を持ってC群への攻撃を仕掛けかねません。これにはスタッフも慌てて、仲裁に群れの境界へ飛びこみました。

ここまで賢いザルは珍しく、今シーズンはアキラの動向にも注目です。



アキラとデコピン



アキラに毛づくろいをするオオムギ



クリスに毛づくろいをするアキラ



親しげなクリスとアキラ

C群に異変が！

高崎山には、現在B群とC群、2つ群れがあります。C群第1位スケサンと第2位ヨッシーは、C群所属でありながら、ほとんどの時間をB群と共に過ごしています。これは、オスザルが群れを移ろうとする前の行動です。

オスザルの順位は基本的には群れに入ってきた順番です。夫婦関係を築かないニホンザルにとって、長く群れにいる上位のオスザルほど、その群れのサルたちの父親である可能性が高くなるためか、メスザルにモテなくなっていくようです。恋愛の決定権は基本的にはメスザル側にあるので、モテなくなったオスザルは群れを出て行き、新しい群れで子孫を残そうとする傾向があります。そのため、この2頭の行動は自然なものなのです。

C群のサルの序列(順位)は、第1位からスケサン、ヨッシー、タツヤで、現在は3頭しかいません。2頭がC群から離れると、タツヤのみになります。オスザルがこれほど少ない群れも高崎山自然動物園では初めてのことで、これからのC群の動きに目が離せません。



1位スケサン

2位ヨッシー

3位タツヤ

C群 第2位「ヨッシー」

ヨッシーはC群第2位のオスザルです。とても優しい性格で、彼の近くにはいつもメスザルや子ザルがいます。

そんなヨッシーですが、4月の下旬ごろからC群からB群へ群れを移るような動きを見せています。C群がサル寄せ場に出現するときにヨッシーの姿はなく、その数時間後、B群のサルが棲んでいる山からヨッシーが単独で下りてくるようになったのです。そして、C群のサルの出現時間とヨッシーの出現時間との差は、さらに広がり、8月中旬頃になると、B群のサルとほぼ同時に出現するようになりました。しかし、ヨッシーはサル寄せ場では、B群ではなくC群の中で過ごしており、C群の他のオスザルとの関係にも変化は見られず、その後も、B群とC群を行ったり来たりする二重生活を送っています。



そして、8月下旬、夕方のイモ取り競争の時間に、ヨッシーはB群の中心付近にまで現れるようになりました。これまでヨッシーは、B群のイモ取り競争に加わることはありませんでしたが、C群が昼頃に山へ帰った後もB群の周辺で過ごしていたようです。この頃からヨッシーとB群との距離はさらに縮まり、10月下旬には、B群のサルが山へ帰る際、その最後尾を走るヨッシーの姿を見かけられるようになりました。しかし、未だにC群の中で過ごしている様子を確認することもあります。これほど長期間に渡って2つの群れで生活をするオスザルも稀で、この状況がいつまで続くのか、今後どちらの群れに属することになるのか、これからもヨッシーに注目をしていきます。



スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、YouTubeで高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。



たかもん



〒870-0802 大分市神崎3098-1
TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500
E-mail info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/

大分市内の小学生・中学生は入園無料です。学生証などを見せて入園してください。